



第一回パネル 会議報告書

平成 26 年 1 月 29 日
10 時～12 時
西岡公園管理事務所

* * * 議題 * * * *

1. 西岡公園の木道および湿原管理のあり方について
2. ボランティア団体からの報告－植物の会よりクリンソウの復元とササ刈りの報告ほか
3. 事務所建てかえ工事について－豊平区土木センターより今後の予定の報告

パネルとは？

西岡自然パネルは、平成 12 年に発足した、西岡公園の維持管理について、行政と市民が話し合う場。行政とコミュニケーションを図る場として個人・団体に開かれた話し合いの場である。またパネルの場で解決できない大きな問題は、専門家の意見や調査結果に基づいて、ワークショップなどを実施して方針を決定するような進め方をしている。パネルとは「討論する場」を意味しており、毎年定期的にパネル会議を開催し、様々な議題について話し合いを続けている。

また、平成 19 年には、西岡公園の基本的な考え方を明確にした「西岡公園の管理運営にかかる提言」を作り、市に承認された。

今回のパネル会議の参加団体

西岡自然パネル、日本野鳥の会札幌支部、西岡の自然を語る会、森の工作、植物の会、ガイドボランティア、西岡ヤンマ団、西岡南小おやじの会、北海道大学大学院、豊平区土木部、札幌市公園緑化協会

アドバイザー：矢部和夫氏（札幌市立大学デザイン学部）、愛甲哲也氏（北海道大学大学院農学研究院）

計 19 名

1. 西岡公園の木道および湿原管理のあり方について

①木道・湿原をめぐる動向の概要（管理事務所）

【経緯】

- ・H22 以前から湿原の乾燥化を危惧する声があった
- ・H22～23 矢部氏（市立大）らに、湿原の現状把握、乾燥化への対策を提言する研究を委託
- ・H24 「湿原と木道を考える会」開催
- ・H25 管理事務所建て替え工事により中断
- ・H26 建て替え工事も進んでいることから湿原の話を再開したいと思っている

【木道の現状】

木道の全長 1360.7m

- ・改修済み（649.3m）木道新設（一部、杭が傾きすでに修繕が必要）
- ・未改修（711.4m）かさ上げや板の張替えによる応急修繕

②経緯と湿原調査結果（矢部氏（市立大））

豊平土木からの依頼で平成 22、23 年に調査を行った。

■ 西岡公園の湿原

西岡公園の湿原は約 100 年前に陸軍の用水として水源池が作られ、堰ができた為に、流れが緩やかになり、土砂がたまってきた、ある意味人工的

にできた湿原である。

■ キーワード

- ・東側木道→未改修の木道
- ・西側木道→改修済みの木道
- ・中央排水路→昔農地として利用する為に作った手堀りの水路。西側木道と交差している。



図1. 調査ブロックの配置図。緑ライン：木道、赤ライン：新旧の河道、黄ライン：山道

■ 湿原流路の人為的な変化について

湿原の表面の水の流れは、湿原植物群落に非常に強い影響を及ぼす。湿原の平均水位と、流動性、水位変動が、それぞれ別々に、湿原植物群落に強い影響を及ぼす。

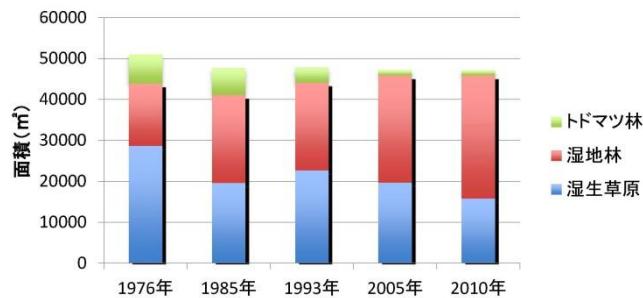
また、航空写真を見ると、1974年以前は、中央排水路により水路が変化し、1978年から84年は木道の設置により、木道水路に顕著な流水が発生した。現在は、平水時は東西の木道水路に顕著な流水が見られ、湿原を網目状に流れていた水（網状流）が集まってしまった。木道設置前の湿原に戻すということは、網状流を復元することになる。

■ 木道から見える湿原の野花

次に木道から見える湿原景観のうち、湿原の野花を考える。

図の通り、木道から近いほど湿生植物の種数が多

く離れると途端に種数が減る。理由は、公園の作業員が野花を痛めないように、ヨシを高刈りしているため。しかし、強度の刈り取りは外来種が入る危険があるので、注意が必要。



■ ヤナギ林の拡大と湿生草本群落

もう一つ湿原景観上問題になるのは、ヤナギ林である。湿地林の分布を調べると、76年当時は湿生草原が主流だったが、2010年はヤナギ林の方が増えている。トドマツ林は、台風の影響である時に激減していることも、この表より読み取れる。

まとめ

西岡湿原は人為的にできた湿原である（明治41年堰設置）

木道は流路を木道下に引き込んだ（木道流路）

この結果、網状流が単流路に大きく変わった

ヤナギ林が増加し湿生草原が減少した

（木道流路が原因かは断定できない。）



提案

木道流路を閉鎖し、できるだけ網状流に近い流れを復元する。

ヤナギ林を一部除伐し、湿原草原の拡大を図る。外来種が入らないように少しづつ取り除く。

木道から見通せるところでヨシを高刈りする。湿生の山野草を増やし、景観を向上させる。

貴重種の保全、湿原らしい景観の保全、および人が集まり湿原に対する理解を深める環境教育の場をゴールにおいて、対策を考える。

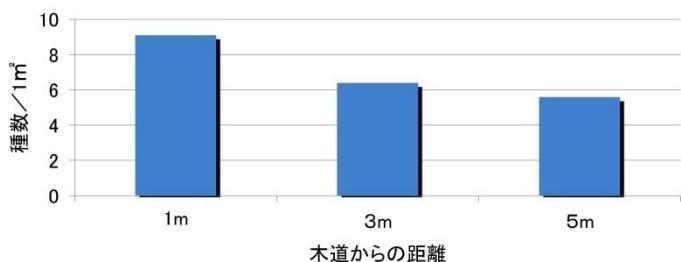


図4. 木道からの距離と種数の関係

③エコカウンターによる利用状況調査およびアンケート調査（愛甲氏（北大））

木道の話を聞き、豊平区土木部から依頼されて 2013 年 6 月に西側の木道入口に踏圧の感知式センサーを設置した。また同年 8 月に、東側の木道入口に赤外線で動物の熱を感知するセンサーを地上部に設置し、両側の木道入口からの出入りを記録している。ちなみに、踏圧のセンサーは、雪が積もると使えないが、正確な人数をカウントできる。一方赤外線のセンサーは通年使える。また、管理事務所でアンケート調査を実施し、

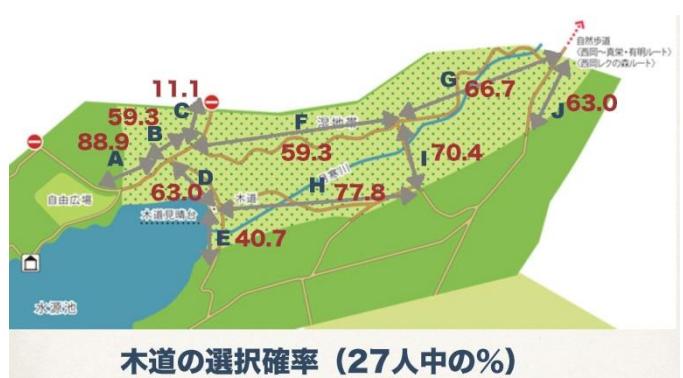


27 の回答を得た。

分かった事は、

- ・木道利用者の 1 日のカウント数は最大で 277 人。
- ・春先は多く、夏はいったん減り、秋に増える。冬も一定の利用がある。
- ・雪が無く、天候の良い、休日に利用が多い。
- ・東西で約 3 倍の違いがあった。
- ・年間で東側 18,450、西側 5,681、計 24,131 と推計。
- ・自由広場～見晴台～西側 A→D→H のルートがより選択される。
- ・木道の老朽化、トイレ、ゴミ、ペットが課題として認識されている。

来年度以降も調査を継続し、春には、もう少し一般の方を含めて、我々が意識調査をすることを考えている。



* 報告を受けて出された意見（抜粋）

- ・人為を加えて、より自然度の高い環境にもっていくのは賛成。木道の存廃は別に考えたい。
 - ・東側の木道を使う人が少ないので、老朽化が原因。管理事務所のように、老朽化した部分にお金をかけても良いのでは。
 - ・東側の木道は、西側を歩いていても見られないものが見られる。東側の木道が無くなると困る人もいるので、時間をかけて見極めたい。
 - ・東側を整備して乾燥化が進むなら本末転倒。乾燥化を軽減する措置をしながら見極めたい。
 - ・自然観察を目的とする場合、ある程度ルートが無いと観察出来ない。周遊ルートが無いなら、展望台のような場所を作るなど考えて欲しい。
 - ・ヤナギを切るのは賛成。
 - ・木道を無くすと、自然観察の名目で、湿原野中に人が踏み入って地面が固くなり、余計乾燥化するのではないか。
 - ・湿原に下りづらく、木道の下に日の光が入るように、尾瀬は木道をかなり高く作っている。サロベツは、グレーチング（格子状の鉄材）を使い、下に光が入るようにしている。
 - ・東側の木道の下はかなり深く掘れているので上手くいくのか、工事工法がわからない。
 - ・都市公園なので、利用者により安全のレベルが違うことを考慮して、安全点検を行い、安全性の確保も考えないといけない。
- 今は応急処置で保っている。湿原の保全についての話がある中で同じように直すことはできない。方向性が出て来た段階でまとまった予算を確保できるように動く必要がある。(札幌市)
- ・湿原の自然再生事業を行った広島県の八幡湿原を視察した。木道は周遊するのではなく、1 本の木道から枝状に延ばして、先に観察台を設置する構成だった。また、木道の設置は、流路を避けて、しっかりした部分を選び設置していた。

今回の議論で方向性や結論が出るものではなく、今後引き続き議論を続けていきたい。

2. ボランティア団体等からの報告

■ 西岡公園植物の会からの報告

2007 年から 12 年まで、植物の記録を標本として残す活動を行っていた植物調査の会から、意志を引き継いで 2013 年に始まったボランティア団体。公園に来る人に興味をもってもらえるように、思いつく事から始めている。1 つはササ刈りで、スマレコースの一部と、パーゴラ広場の裏を試験的にササ刈りしている。カタクリがなくなった場所なので、そういった植物が復活してくれると、来園者にもアピールできるのではないかと思う。もう一つはクリンソウの復元。調査の時に園内からクリンソウが無くなっていることがショックで、復活して欲しいという気持ちで、上流から種子を採集し、苗を育てるところからやっている。苗は、事務所近くに花壇を作り植えて、花を育てて種を取り、湿原に蒔くことをここ 2 年実施している。1 つ 2 つ芽が出ている感じもある。水際に植えるべきだという意見もあれば、散歩していく初めてこんな植物があることを知ったという意見もある。湿原をクリンソウ畠にするつもりはないので、この先どうしていくかは、都度考えて、ポツポツ続していくような感じで、試行錯誤してやっていきたい。市民を巻き込んだ観察会をやったり、オオハンゴンソウの防除も、一般の人を巻き込んでできたら良いと思う。長く続ける活動にしたい。

■ アンケート調査について（愛甲氏）

自然歩道の調査をした時に、餌付けのことが話題になったり、アンケートにも出て来た。ここは様々な経緯があって、以前えさ台があったが、皆で話し合って撤去したことも聞いていたが、エコカウンターの点検の際に、ひまわりの種が蒔かれている状況を見たりして、良い悪いではなく実態を調べる調査をやりたいと思っている。今年度、1~2 週間おきに、園内のどの辺りで餌付けの痕跡が見られるか、やっている人がいるかの確認をしたい。木道も含め春先に、利用者にアンケート調査も実施したいので、また皆さんにも、相談に乗って欲しい。よろしくお願ひいたします。

3. 豊平土木より事務所の建て替えについて

■ 開催工事等スケジュール

①管理事務所新設工事

時期：H26 年 7 月～27 年 1 月

内容：新事務所の建築（床面積 320 m²）

②外構整備（仮復旧）

時期：平成 26 年 12 月～27 年 3 月

内容：事務所周辺舗装の仮復旧及び水源池転落
防止柵の取り替え（延長約 150m）

③旧事務所解体工事

時期：平成 27 年夏～秋を想定

④外構工事

時期：平成 27 年秋～冬を想定

内容：要調整（花壇、駐車場、オープンスペー
ス活用）

■ 外構整備について

・倉庫の考え方

予算配分が難しい状況にあり、当面現倉庫の活用が求められる。

・外構整備の内容は？

当面、駐車場および資器材の保管場所として活用し、長期的な活用方法を検討する。

* 将来の利用検討にあたっての考え方

①実際に活用される状況を想定しながら、内容を検討したい。

②将来的な倉庫の移築を考えた場合に、大きな手戻りにならない内容にしたい。

③整備内容、必要費用により、施工可能になる時期が変わる可能性がある。

最後に、管理事務所より

パネルは、年 2 回程度実施していたので、今年度ももう一回実施したいと考えています。